

JAえちご中越 さんとう地域「特別栽培米コシヒカリ」栽培暦

★ 消費者の皆様へ安全・安心な「JAえちご中越 さんとう産米」をお届けするために、化学合成農薬・化学肥料（窒素成分）を県認証地域慣行基準の1/2以下の使用量で栽培するものです。

月

4月

5月

6月

7月

8月

9月

日

510152025

510152025

510152025

510152025

510152025

510152025

出穂前後日数

品種特性に合わせた作業計画の策定

-24-18-100

+40

生育ステージ

種子消毒
(温湯消毒)

浸種開始

催芽

播種

【作業目安】

4月3日

4月13日

4月15日

播種量の目安:140g/箱

育苗日数は20日程度

田植え

5月5日～

除草剤散布

中干し開始

6月5日～10日

最高分け時期

6月25日

幼穂形成期

7月12日

1回目穂肥

7月18日

2回目穂肥

7月26日

出穂期

8月5日

収穫期

9月14日～

水管理

田植え後→3～4cmのやや深水で植え傷み回避

活着後→2～3cmのやや浅水で早期分けつ促進

除草剤散布時→湛水状態(水深5～6cm)で散布

中干し開始まで→浅水更新でワキの発生防止

やや深水

一時湛水

浅水更新

中干し・溝切り

生育量を把握して遅れずに！
小ヒビが入る程度になったら終了

飽水管理を継続 ⇄ タメ水厳禁
(異常高温時には一時湛水)

フェーンの発生時:地域の水利条件等に応じた夜間水温を下げるこまめな水管理の徹底

出穂後25日以降に最終かん水を実施!!

落水期

栽培管理のポイント

Point 1

～適正な作業計画の策定により健苗を育成します～

① フェーン遭遇リスクを分散する播種計画～適期播種、適正な播種量、育苗期間20日程度で健苗育成

② 土壌診断結果にもとづく土づくり資材(有機質・ケイ酸)の施用

③ 作土深15cmの確保～ほ場条件に応じた適正量の基肥施肥
→基肥N施肥量の目安:「10a当たり3.0kg～3.5kg」

Point 2

～適期田植えで初期生育を確保します～

① 移植前追肥(べんとう肥)の施用→活着・初期生育を促進

② 田植え期の目安は5月5日～10日
移植時期の分散・調整でフェーン遭遇リスクを分散

③ 栽植密度:60株/坪
・植付本数:3～4本/株
・植付深さ:2～3cmの浅植え
*補植苗を速やかに撤去する

Point 3

～生育状況にあわせた生育調節で過剰生育を抑制します～

① 移植後25日にほ場ごとの茎数を確認～目標穂数の80%(280本/㎡=16本)を確保→適期中干し開始

② 全ほ場で溝切り(10条:3mに1本)→速やかなかん水・排水管理

③ 本格的な梅雨入り前に地固め→中干しは小ヒビが入る程度になったら終了～遅くとも出穂30日前までに飽水管理へ移行

Point 4

～適切な水管理により稲体機能を維持します～

① 中干し以降は、田面が強く乾くことのないよう飽水管理を継続(強い中干し・タメ水→厳禁)

② 出穂後25日以降に最終かん水を入水(落水は出穂28日以降)、かん水が困難な場合はかん水可能終期に湛水する

③ 異常高温時には、速やかに一時湛水～高温障害を防止

Point 5

～適切な生育診断による穂肥施用→品質・収量を確保します～

① 1回目穂肥は生育状況に応じて出穂前18日～15日に施肥(生育のムラ直し→ムリのない施肥)

② 後期栄養確保に向け、2回目穂肥(出穂前10日)は確実に施肥

③ 出穂期の葉色値が32を下回ると予想される場合や登熟期間の高温予想時には、追加穂肥を施用(基肥一発肥料使用ほ場も同様)

Point 6

～適期刈取、適切な作業により高品質米に仕上げます～

① 出穂後の積算気温:1,000℃、籾の黄化程度(85～90%)を確認～適期に収穫する
→異常高温が予想される場合には早めの収穫を検討する

② 適切な乾燥・調製作業による高品質米仕上げ

③ 収穫後は早めに土づくり資材の投入+稲わらの秋すき込み

＜施肥量の目安＞

(成分 kg/10a)

施肥区分	窒素	リン酸	カリ
基肥	3.0～3.5	2.5～3.0	2.5～3.0
穂肥①	1.0	0.4	0.6
穂肥②	1.5～2.0	0.4～0.6	0.6～0.9
合計	5.5～6.5	3.3～4.0	3.7～4.5

＜中干し開始の目安＞

目標穂数の80%	280本/㎡
1株当たり茎数	16本/株
葉数	7.0葉
田植え後日数	30日

＜1回目穂肥施用の目安＞

幼穂長	0.5～1.0cm
草丈	70～75cm
茎数	22本/株
葉数	11.5葉
葉色	34

＜品質向上・収量確保目標＞

玄米1等級比率	90%以上
10a当たり収量	510kg
玄米タンパク含量率	6.0%

＜品種特性＞

早晩性	耐倒伏性	葉もち・穂もち	紋枯病
中生	弱	真性抵抗性を持つ	やや強

＜収量構成要素＞

収量(kg/10a)	1穂籾数(粒)	穂数(本/㎡)	㎡籾数(粒)	登熟歩合(%)	千粒重(g)
510	80	350	28,000	83.0	22.0

※1 窒素成分のうち化学合成由来窒素を3.5kg以内に抑える

※2 栄養状態が確保できない場合は有機質100%肥料を追加する

※3 越後の輝き有機50スーパー元肥ロングの施肥量は、40～50kg/10a程度とする

◆1 1回目の穂肥は、生育ムラ直しを重視した「ムリのない穂肥」を適期・適量施肥→“籾数確保と倒伏防止”

◆2 2回目の穂肥は、後期栄養確保に向けた「出穂10日前:しっかり穂肥」を確実に施肥